

令和5年度 ヤングケアラー・若者ケアラー支援研修 事後アンケート集計結果

1 日時・会場・受講者数

令和5年11月30日(木) 13:20~17:00	神戸会場 県福祉人材研修センター	46人(定員85人) 充足率:54.1%	合計87人 (定員170名) 充足率:51.1%
令和5年12月12日(火) 13:20~17:00	姫路会場 県立姫路労働会館	41人(定員85人) 充足率:48.2%	

2 アンケート実施方法

各アンケート項目について、研修後に Google フォームへ入力。個人を特定しないことを前提に、回答結果を会議資料や報告書等で活用することに承諾した者のみ任意回答

3 回答者数

49名(回答率:56.3%)

4 各回答結果

Q1.職場の領域

児童福祉系	4
高齢者福祉系	6
障害者福祉系	3
生活保護系	0
医療系	1
教育系	27
福祉総合相談支援担当	4
ヤングケアラー相談支援担当	1
地域福祉担当	3
重層的支援体制整備事業担当	3
合計	49

Q2.教育・福祉・医療系の仕事に携わった年数合計

0か月~1年未満	1
1年~2年未満	0
2年~3年未満	1
3年~5年未満	1
5年~10年未満	5
10年~20年未満	14
20年以上	27
合計	49

Q3.資格保有状況

有している	39
有していない	10
合計	49

Q4.保有資格の種類

社会福祉士	11
精神保健福祉士	3
介護福祉士	4
介護支援専門員	2
認知症ケア専門士	1
相談支援専門員	1
看護師/保健師	2
公認心理師	1
教員免許	18
幼稚園教諭	1
合計	44

複数回答あり

Q5.ヤングケアラー支援経験

支援した経験がある	22
支援した経験がない	27
合計	49

Q6.支援の際、他の部署や職種と連携した経験

連携した経験がある	18
連携した経験がない	1
どちらともいえない	3
合計	22

Q7.普段の業務における他の部署や職種との連携

よくある	39
ときどきある	9
あまりない	1
合計	49

Q8. 研修を受講して気づいたこと、わかったこと、思ったこと

【支援者としての姿勢、ヤングケアラーへの気づき、本人理解の重要性】

ヤングケアラーかもしれないという視点で子どもたちの見守り、寄り添いを続ける事が大事だと再確認した

日頃から広く目を向けて、ヤングケアラーかもしれないと気をつけて見ておくことが大事なのだと気づいた

発見、つながりの難しさ

本人に寄り添うことが何より大事であることを再確認できた

ケアラーにとってはずっと寄り添ってくれる支援者が大切であること

ケアラー本人の孤独感、喪失感に気づくこと

家族だけでなく、本人の意思、希望に寄り添うことが大切だと感じました

社会とつながることの重要性

当事者の人は自分では気づきにくく、自ら SOS を出すことは難しいため、周りの大人が発見する感度をあげることが大切と感じました。

ヤングケアラーが自分自身から SOS を出すことの難しさを、周りがサポートしないといけないと感じた。そのためにも気づく視点、違和感を感じる力を持つこと

早期に気づき、早期に対応する必要性を強く感じた

制度は作られているが利用する側にはまだまだハードルが高いということがわかった。

本人が支援を求めることは難しいので、周りが気づいて連携しながら支援することなど

「気づき」「情報共有」「ケース会議」「関係機関・多職種とのつながり」の大切さ

ヤングケアラーの実情を知ること

「学校に行きたくない」ではなく「学校に行けない」家庭状況・背景があることを想定した不登校対応等の必要性を強く感じました。

当事者の方の講演を聞き、自分の見方を反省しました。お話を聞く中で、講演者はお母さん、お祖母さんのことを「優しかった」「我慢強かった」と表現されていました。客観的にみると、身体の弱い母が関係機関等に頼ることなく、子どもにすべてを担わせてしまい、講演者の状況をつくってしまったように思われます。もちろん、様々な背景もあるでしょうし、時代的背景もあるかと思いますが、決して適切だとは言えません。それでも、講演者にとっては、お母さんやお祖母さんと過ごした日々がすべてで、私たち支援者がそれを否定することは、講演者の人生を否定することにもなる。学校の先生など、「気にしてもらえる関係が一人じゃないと思わせてくれた」と言われていたことが印象的でした。私自身、知らず知らずのうちに、相手を見定めていたり、素直に受け止めずうがった見方をしていたように思います。支援者としての姿勢、態度を改めて考える機会となりました。ありがとうございました

【多職種、他部署とのつながりの重要性】

顔の見える連携が必要なこと。連携の重要性

お互いがつながることが大切であることがわかった

子どものことを第一に考えた上で部署や職種を超えて連携を図ることの重要性

様々な部署等との連携が必須であると考え

一つの部署では機能しないため、多職種の連携が本当に大事であると思いました

自分の部署だけで解決を目指すのではなく、より良い支援を目指して、他部署と連携して取り組む必要があること

学校（担任）のみで「なんとかしよう」ではなく、他部局とも情報を共有し対応するという視点を持った関わりや、意識を教師が持つことの大切さがわかりました

演習を通しての教員の視点と多職種連携について

ケアラー窓口への敷居が低くなったように思います。今後気になることがあれば、気軽に窓口へ相談しようと思いました

関係機関とつながる力を伸ばしていきたいと思います

職種によって気づく視点が違うことがわかった

ヤングケアラーの実態等を聞いたり、グループディスカッションを通して、本人が抱える問題について、自分の仕事の範囲ではなかなか難しいことも関係機関と連携し情報共有することや、アイデアを出し合う中でできる支援策も見えてくるのではと感じた。多職種連携の必要性について考えることができたし、専門性のある人の話が聞けてよかったと思う

連携の大切さを感じています。連携を機能させていくむずかしさも同時に感じる毎日です。連携する上での役割分担や共通理解、何よりも当事者が求める支援の質や量、思いを中心に据えて考える事の大切さを改めて感じました。貴重な研修をありがとうございました

多職種が集まり、研修をしたことで、意識する年代の幅が広がり、その人の人生としての課題と捉えることができました

演習で多職種の方と話し合えたことで、支援の視点が増えた。今後の業務に役立てることができると考える

多職種での話し合いは「そういったアプローチがあるのか」と気づきを与えていただくことが多かったです。今後の学校と福祉部局をつなぐ新たな視点が持てました。ありがとうございました

多職種の方々と共に研修することで、お互いに関に仕事の内容、特にケアラー支援に関して職種間でやれる事と他の職種から見たらやれそうなのに、現実には踏み込めない事など知り得た

一つの部署や課、学校だけでなく様々な視点から支援の方法が考えられる事が何より当事者やその家族にとっても安心できる事がわかった

連携をしたいという思いは同じ。後は、その組織ごとにある制度の壁

まだまだ知らない連携先があることを知った

- ⑳ 福祉分野での連携はあるが、教育関係者との連携ができてない事がわかった
- ㉑ 特に福祉と教育の連携について必要性を感じながらコーディネート機能が不十分であるために連携できていない現状があります。研修を受けて、支援にはあらためて連携が必要であると感じました
- ㉒ まだまだ連携できる関係機関について知識が足りないと感じた。ありがたい研修でした
- ㉓ 介護支援専門員の教育系領域での認知度の低さがわかりました
- ㉔ 専門性の高い関係機関とつなぐ大切さも感じた
- ㉕ 今回の研修を通し、早い段階で繋がるべきところに繋がりが持てるよう、支援をしていかなければと改めて思った。救える人がいるなら救いたい、その気持ちを忘れずに日々相談業務にあたりたいと思う。貴重な時間をありがとうございました
- ㉖ 他職種連携の説明の際、客観的事実を明確にすることの重要性を改めて感じました。はじめは

「きっと〇〇だろう」の見立てですが、見立てのままで終わらせることなく、何が事実かを明確にし、支援を考えたいです

【情報発信、制度や社会資源への理解、居場所や支援体制の整備】

研修を受けて、私自身も 30 年以上も前の事ですがヤングケアラーだったんだと感じました。当事者のお話しに大変胸を打たれました。当事者の会が必要な方に届くようにしたいです。ありがとうございました

市町によって支援の内容が異なることが改めて分かりました

地域差があるので、居住地の社会資源を細かにタイムリーに理解する必要があると感じました。

ヤングケアラーの定義が曖昧なことが気になりました。家庭の役割が、どこまで個人の時間を奪っていると考えなのか。母親の役割、父親の役割という枠組みがなくなっている時代において、子どもの役割というのもまた区切れない感覚があります。いじめの定義同様に、少しでもヤングケアラーとして紹介されている「家庭の中での働き」を少しでもやっているかという観点で見れば全員ヤングケアラーであるわけです。ですからヤングケアラーとそうではない方の違いがもう少し分かりやすいものにしないと、支援が広がりにくい気がしました

居場所づくり

子どもたちだけではなく、保護者も含めて、何かを背負い過ぎている方の荷物を社会が少しでも背負ってあげられる仕組み作りが急務のように感じました

連携の場、組織的な仕組みの重要性の再認識

A9. さらに知りたいこと・要望

【事例（成功事例）を知りたい】

個別ケース

他の事例について

実際に支援している事例や、取り組みについてもう少し詳しく知りたい

支援者側の具体例など

うまくいっている事例およびその自治体

最近の成功事例

連携によって改善された成功事例を共有できればいいと思います。

実際につながることで、大きく状況が変わったケースなどについても知っていきたいと思います。今回は、支援が足りなかった例だったので、支援が行き届いた良い例（どのように支援がつながり広がっていったか）について具体的に知りたいと思った

他市、他府県の状況なども知れるとありがたいです

当事者の声を更に聞きたいです

【具体的な支援方策や情報を知りたい】

支援の内容について、さらに教えていただきたい

ケアラー本人への具体的な支援を、どのように構築していくか

今後、ヤングケアラー当事者からの相談があると思います。支援法や連携について教えて頂ければ幸いです

ケアラー自身はもちろんですが、ケアされる家族も安心して支援を受ける心理状態でないと、ケアラーも安心できないため、両者によりそえる支援の仕方などが知りたいです

家庭へのアプローチの仕方

精神疾患をもつ保護者への関わり方(今回の研修で、そういった場合もヤングケアラーだとわかったため)

制度や機関

福祉・医療におけるサポート

児童生徒の家庭環境に係る福祉制度

継続性を持った支援やその後の心のケア等について

義務教育以降の支援、有効なキーパーソンを知りたい

支援を受けているヤングケアラーの進路

ケアラーの方への就労支援など

連携会議、ケース会議の進め方

自分自身が教育系なので、医療系の話をもっと聞きたい

【協議や研修の場づくり】

学校の方と連携できる機会がこれではなかったため、福祉関係と学校関係がかかわれる機会がまたあればよいなと思いました

自分の所属校のある自治体でできる支援策等について話ができる場があればと思いました

多職種連携をテーマにした研修

市町で行える連携システムの構築に関するヒントになる研修があれば参加したいです

若年層の教職員（担任をしている教職員）対象に研修を実施してもよい

いまは考えがまとまりませんが、またこのような研修会があれば参加したいと思います。ありがとうございました

【当研修への意見・要望】

時間を十分にあった研修となりました（原文ママ）

体験者のお話を聞いて、有意義であった

当事者の話を聞く良い機会を与えてもらえた。ありがとうございました

ヤングケアラーの方の話を聞く経験ができ良かった。話しにくい内容を伝えてくださったので、自分としても改めてこの課題に真摯に向き合いたいです

講演の中で実際の経験をお話いただくことは、とても貴重で、真剣に考えていかないといけないと実感させられます。ヤングケアラー、若者ケアラーの当事者の方たちからの意見を聞く機会があると、どのようなことを考え、行動していかないといけないのかを考える機会になると思います

当事者の方のお話はかなり参考になりました。ただ、その方の体験に基づいた事例検討は、今の資源との違いがあるので、難しさがありました

今日の研修は実際の事例をもとにした研修で、大変勉強になりました。そのうえで、少し気になったこともあります。長文になることをお許しください。今回、当事者の方の実体験を事例として扱いましたが、問題点の洗い出し等で、例えば、「母親や祖母が他への支援を求めれば良か

った」「頼るのが息子になってしまっていた」のような意見は、もしかしたら講演者が聞かれると、苦しいかなと思いました。ご本人のお話から、私は、大変な状況ながらも、母を大切に、祖母を大切に、家庭という繋がりを大切に結果、大人になって、振り返れば改善点があったという状況であったと思っています。改善点＝過去の失敗のような形に伝わらなければいいなと思いました。もちろん、そのような懸念は乗り越えられての今日の研修とは思いますが、「今後同じことにならないように」という思いで事例を提供して下さる講演者が傷つくことがないようにと、要らぬ心配をしてしまいました。もう一点は、過去の研修の経験からです。現在、教育委員会で勤務していますが、少し前に他職種連携研修ということで社協さんとSSWとの連携の研修に参加しました。連携先に対する幅が大きく広がりました。今日は教師が多かったですが、SSWの参加も増えれば、SSWからの学びがとても多いと思います。日々の業務に追われ、まとまった時間で何かを学ぶ機会が難しい毎日の中で、今日のようにしっかり考える機会は貴重でした。今後も「もしかしたら」の高いアンテナで、目の前の子どもたちはもちろん家族も安心して生活できるように支援していきます。今日はありがとうございました

多職種連携が必要なことなので、もっといろんな職種の人が集えるようにして欲しい。市役所から案内がないと申し込みできないため、行政や教育委員会以外は申し込みが難しい教育関係の方が多いグループだった。行政の方の意見や経験をもう少し聞きたかった各関係機関がヤングケアラーへできる支援一覧等があればありがたいです
支援者支援を引き続きお願いします

【その他】

教育現場とのしっかりした連携、関係づくりを進めて行きたい

資源の一覧をいただけたが、自分の市での関係機関や団体等について、もっと調べていきたいと思う

兵庫県内で、ふうせんの会さんのような活動をされている団体があるのか

ヤングケアラーは虐待に該当しないのか。虐待といっても養護者を非難するのではなく、やむを得ない状況を受容したうえで、そのやむを得ない状況を打開しなければならないことを世帯に説明することも必要ではないか。難しい問題ではあるが、生まれた環境により遊びも含めた学びの機会が失われるのは避けたいと感じます

特にありません（複数回答あり）